

声 明

令和6年4月1日に県庁で行われた新規採用職員に向けての川勝知事による訓示の中に「毎日毎日、野菜を売ったり、あるいは牛の世話をしたりとか、あるいは物を作ったりとか、ということと違って、基本的に皆様方は頭脳、知性の高い方たちです」という発言があり、JA青壮年部盟友のみならず、さまざまな方面から怒りや失望の声が寄せられている。

知事の真意はどうあれ、この発言は、野菜を売ったり牛の世話をしたりする仕事である農業が、頭脳・知性に欠ける者の就く職業であるかのようにも受け取られ、我々農業者としては到底承服できるものではない。

農作物の栽培管理や家畜の世話、それらを販売する経営管理について、我々農業者は、内外からの学びを活かし、日々習熟し、知恵を絞って取り組んでいる。その我々の生業について、県政の長である知事からこのような言葉が発せられたことは極めて遺憾である。

しかし一方で、我々農業者が県民に安全安心な農作物を安定して提供するためには、県政によるバックアップが不可欠だと考える。県庁職員諸氏に於いては、本件によって我々農業者との関係性が揺らぐことなく、今後も変わらぬ協力関係を築いていくことをお願いしたい。

農業をとりまく環境は、自然災害の頻発・激甚化や生産資材価格の高騰など、経営継続が厳しい状況にあるが、我々青年農業者は、誇り高き青年の情熱と協同の力をもって農業に邁進し、県民と豊かな食と環境の共有をめざすものである。

令和6年4月5日
静岡県農業協同組合青壮年連盟
委員長 桜井亮平